

# 第425回鉄鋼流通問題懇談会

2013年5月20日（月）14：30

茅場町「鉄鋼会館811」

## 議 題

1. 配布資料説明（全鉄連）
2. 全鉄連情勢報告
  - (1) 地区の状況
    - 東京、大阪、愛知、東北、新潟、岡山地区概況報告
  - (2) その他地区の概況
    - 鉄流懇5月例会で発表の各地区景況などアンケート結果
  - (3) 総括：林全鉄連会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2013年8月20日（火）14：30 ～

於：日本鉄鋼連盟4階第1会議室

## 鉄鋼流通問題懇談会品種別動向について（2013年5月）

発表項目	発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
		メタルワン	住友商事	阪和興業	メタルワン
1. 需給動向（景況感）		年明けの政権交代以降、景気回復の期待感が高まっているものの、足許の荷動きは芳しくない。高炉メーカーを中心に値上げが実行されており、流通各社は早急な価格転嫁を目指す。	2013年3月末の薄板三品在庫は385万8千トンと2012年11月以降5カ月連続で400万トン割れをキープした。在庫率も2.06カ月と前月の2.47カ月から大幅改善し、適正水準目安と言われる2カ月を割り込む水準まであと一步に迫った。国内鉄鋼メーカーの需要に見合った生産調整および輸入材入着量の減少傾向が背景にあると思われる。自動車国内生産台数の上振れ、建築需要の好調維持などを背景に需給引き締めへの期待感はあるものの、鉄鋼メーカーは今後も慎重に適正レベルの生産・在庫水準を見極めた対応をするものと思われる。	3月末全国厚中板在庫は、325千トンで前月比2.5千トンの微増。出荷は160千トンと5千トン増加。在庫率は202%と減少。1Qは各社の定修あり、厚板需給はタイト化。各社の稼働状況はよくないものの、メーカー値上局面の中、切板価格値上が課題。	棒鋼 関東地区の丸棒発注数量について、1-2月は28万トン/月(推定)と比較的高いレベルとなったが、3-4月は20万トン/月(推定)レベルの模様であり、発注の端境期に入っている状況。 形鋼 H形鋼に関し、1-4月のときわ会ベース東京地区在庫量は16.4千トン/月と前年同期比では+15%と上向いているものの、直近の10-12月対比では▲7%と減少する中、盛り上がり感には欠ける状況。4月末市中在庫はときわ会全国ベース192千トンと3ヶ月振りに減少に転じており、5-6月にかけて一段の減少が予想される。
2. 需要産業動向		自動車分野については、足許円高是正の影響を受け、13年上期生産に上方修正がかかり始めている。造船については、新造船需要は依然低調なるも、円高是正の影響もあって国内メーカーの受注が戻り始めている。建機については、復興需要及び中国の景気回復が見込まれ13年度は回復見通し。建築関係については、足許期待されていた程の動きは未だ見られないが、復興需要の本格化・増税前の駆け込み需要が見込まれる。また、土木関係は東北震災向け港湾・道路工事を中心に依然好調。	2013年3月の国内自動車生産台数(四輪車)は82万3千台(前年同月比▼16.4%)となった。エコカー補助金終了の反動による生産台数の減少は7カ月連続となったが、昨年末からの円高修正を受けて年初の生産計画を3月に入ってから10%程度上方修正させたメーカーもある。3月の家電製品の国内出荷数量はDVD・ビデオで不振が続く一方、洗濯機が57万1千台(前年同月比+13.3%)、エアコンが74万7千台(同+10.1%)、冷蔵庫が48万9千台(同+17.8%)と高水準をマークした。建築分野では3月の住宅着工戸数が71,456戸(前年同月比+7.3%)、季節調整済年率換算値で90万4千戸(前月比▼4.3%)となり、7カ月連続で前年同月の水準を上回った。今後は消費増税前の駆け込み、低金利ローンの享受志向などもあり、持ち直しの動きは継続するものと思われる。2012度下期からの大型復興需要が期待されていた東北だったが、目立った大口需要はなかった。2013年度は上半期から下半期前半にかけて土木中心の需要は期待できるものの、建築系の薄板需要はその後にずれ込むという見方が大勢を占めつつある。	3月末造船手持工事量は、2555万GTで、前月比100万GTの増加。(1年ぶり)又、3月の建設機械出荷金額は、2504億で、前年同月比8.3%減。(8ヶ月連続)内訳は、内需が992億、外需が1512億。建築関連1QでFABの山積みは、高い。	棒鋼 2013年のマンション供給戸数は、首都圏・近畿圏共に2012年比+10%(首都圏5万戸、近畿圏2.5万戸、不動産経済研究所による)と見込まれている。一方、現場の人手問題により着工の後倒しの傾向は当面も継続の見込み。 形鋼 土木に関し、東北の護岸整備に加え東京都の耐震護岸工事は堅調に発注推移している。 建築に関し、2012年度の鉄骨需要量(推定)は478万トンと前年度比+11%となり、今年度も横這から微増にて推移と見込まれる。首都圏は秋口以降も再開発案件に加え大型物流倉庫・SC等の案件が予定されている。
3. 輸出入動向		2013年3月度鋼管輸出量は継目無鋼管：6.0万トン(前月比+28%)、溶接鋼管：12.6万トン(前月比+43%)。輸入量は、溶接鋼管：1.3万トン(前年同月比+55%)となった。	2013年3月の薄板三品の入着量は21万7千トン(前月比▼9千トン、前年同月比▼6万6千トン)となり2012年11月以降5カ月連続の減少となった。国別では韓国が70%、台湾が25%で太宗を占めるが、中国からの入着量は激減するなど円安による割高感から暫くは低水準で推移するものと思われる。鉄鋼メーカーによる輸出は年初の1~3月期に熱延広幅帯鋼が大幅に増加した。同時期の月間平均輸出数量は103万トン。前年同期は80万トン/月であり28.7%の増加となった。向け先としてはアセアン各国の増加幅が大きい。	3月の輸入通関は、34千トンで、2月比では増。内韓国が31千トンとほとんど。輸出は、353千トン。内韓国8.6千トン、中国5.6千トン、台湾1.2千トンと韓国比率が少なく、他アセアンへのウェイトが高い。	1-3月の小形棒鋼輸出量は5.4万トンと前年同期比▲1.0万トン。輸入量は0.8万トンと前年同期比+0.1万トンとなった。 1-3月のH形鋼輸出量は12.3万トンと前年同期比+2.9万トン、輸入量は1.5万トンと前年同期比横這となった。
4. 海外市場動向		油井管：ミルにやや空きが出ており、高級品でも低価格・短納期対応が散見される。 ラインパイプ：マーケット価格は横ばいだが、ミルの空き状況もあり、案件によって積極的な価格を出している模様。	中国の鋼材市況は4月に入った後も下落が続いた。第1週の熱延コイル市況は3,978元(約6万2610円、3mm厚、増値税込み)と前週比▼1.7%安で6週間連続の下落。大手鉄鋼メーカーは年初よりリストプライスを上げてきたが、鞍山が4月販売価格を下げるなど、軟化した市況に対応するメーカーが出始めている。高水準の生産が続く一方で需要に勢いがなく需給が緩和していることや鉄鉱石価格が3月下旬に大幅に下落したことから、市況を押し下げる展開となっている。	韓国 2013年の船舶建造量が前年比10%減の2830Gt。現代、ポスコと韓国厚板社の設備増強もあり、下期以降の東アジアの厚板需給は不透明。	東南アジア：全体的には鋼材需要は低調であることに加え、足元のスクラップ市況の軟化傾向を受け引合は様子見状態。 北米：経済全体は回復基調に有るものの足元の鋼材需要に結びつくまでには至っていない。足元のスクラップ市況軟化傾向に製品市況も影響を受けている
5. トピックス					

## 鉄鋼流通問題懇談会 メーカー発言 (2013年5月)

発表者 発表項目	メーカー JFEスチール
1. 需給動向 (景況感)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本経済は昨年末に底入れ、政府の経済対策や日銀の一段の金融緩和期待を受けて円高修正・株価上昇、マインド面で改善している。実体経済の回復は現状限定的ながら、上向き方向にある。海外経済は米国は堅調も、中国の景気回復に足踏みが見られ、欧州はマイナス成長継続、全体では緩やかな回復ペースにとどまるとみられる。</li> <li>・ 国内の3月の粗鋼生産は前年同月比+1.3%の945万トンと2ヶ月ぶりに前年比プラスとなった。12年度は1億730万トと前年比0.8%増となり、3年連続の1億トン台を維持した。普通鋼鋼材出荷(3月国輸計)は前年同月比0.2%減の694万トンと2ヶ月連続で減少した。一方、3月の普通鋼鋼材輸入は前年同月比▲21.8%の30.0万トと6ヶ月連続の減少となった。こうした中、3月末の普通鋼鋼材在庫(国内)は545万トンと2ヶ月ぶりの増加となった。</li> <li>・ 海外では、3月の世界粗鋼生産(62カ国)が、前年比1.0%増の1億3488万トンとなった。うち中国粗鋼生産は過去最高の6630万トと前年比+6.6%の増となり、中国ミルの生産は依然高水準であり、世界の鉄鋼需給への悪影響が懸念されている。</li> <li>・ 13年度の鋼材内需は、製造業向けは造船を中心に依然低調であるが、建設業向けで補正予算効果などもあり増加し、前年比では全体で微増と想定している。円高修正の効果から、国内産業の競争力向上が期待され、徐々に上向きになっていくと期待している。</li> </ul>
2. 需要産業動向	<p>[建 築] 3月新設住宅着工戸数7.2万戸(前年同月比7.3%増)。7ヶ月連続のプラス。 12年度の着工戸数は89.3万戸。3年連続のプラス。</p> <p>[自動車] 4月国内販売34.5万台(前年同月比±0%)。 3月完成車輸出38.8万台(〃10.1%減)。 12月四輪車生産955万台(〃3.1%増)。</p> <p>[産業機械] 4月工作機械受注 前年同月比24.1%減の814億円。</p> <p>[造 船] 3月末手持工事量 2,555万GT(前月比4.1%増)。</p>
3. 輸出入動向	<p>[輸出] 3月の全鉄鋼輸出は、408万トン、5ヶ月連続の増加。</p> <p>[輸入] 3月の普通鋼鋼材輸入量は、前年同月比21.8%減の30.0万トンと6ヶ月連続の減少となった。国別では、韓国(前年比13.8%減)が6ヶ月連続、台湾(〃20.3%減)が2ヶ月ぶり、中国(〃62.2%減)が12ヶ月連続で減少した。</p>
4. 海外市場動向	<p>中国の3月粗鋼生産は、6630万トン(前年比6.6%増、過去最高)。世界鉄鋼需給への悪影響を懸念</p> <p>4月粗鋼生産 6565万トン(前年比6.8%増)</p>